教科名	家庭	科目	家庭基礎	単位	2単位

1．教科書
　高等学校　家庭基礎（第一学習社）

2．授業の目標および内容
　たくさんのものと情報があふれている現在、自分らしい生き方・暮らしをするためには、今の時代にふさわしい知識とスキルが必要である。家庭基礎では、生きるための「基礎」を学び、実習や体験を通して、自分の頭で考え、これから自立して生きていく土台を作っていける学習をめざしていく。
　特に、経済的自立は、青年期に身につけたい課題の一つである。自分の収入に合った生活をすることを学び、生き方や夢を実現するための人生計画にあった経済計画を立てられるよう学習する。
　家庭基礎の対象は、「人」と「社会生活」に主に分かれる。18歳成人となり、高校3年生には成人となる。その自覚を促し、「成人になるとは？」を意識させる。一年後には、「一人で生きていける」知識、技能を習得することを意識する。。

3．テスト

	１学期	２学期	３学期
定期試験	二次７月	二次１２月	期末３月
学力試験	なし	なし	なし

内容・評価等について
　定期試験は二次テストのみ実施。授業・実習に取り組む姿勢、課題に関する提出物の内容等を総合的に判断して評価する。実習は、作品の出来上がりと同時に、真摯に取り組む姿を大きく評価する。また、課題の提出・提出日厳守は、評価に大きな要素となる。

　おおよその評価の割合　　※正式な評価基準は、各学期の始めに連絡します。

　大きな作品を実施した学期：　二次テスト５０～７０％　作品提出および内容等５０％～３０％
　座学中心の学期　　：　二次テスト９０～８０％　その他１０～２０％
　平常点として、ノート・プリント提出・チャイム着席・授業態度や忘れ物など。

4．長期休業中の課題
　特になし

5．副教材・参考書等
　学習内容のまとめと作業　家庭基礎学習ノート（第一学習社）
　きそナビエプロン（クロッサム）

学期	単　　元	学　習　内　容	備　　考
1	ガイダンス ＳＤＧｓと家庭科	・ＳＤＧと家庭科に深い関係があることを伝え、自分でできることを意識づける	○アンケート （アレルギー調査を含む） ○評価基準 ○プリント（SDGｓと家庭科）
	第１章　これからの生き方と家族 ①　ライフステージと発達課題 ②　青年期を生きる ③　働くとは ④　結婚とは ⑤　家族について	・自立の達成を目指そう ・家族について考える ・家族、家庭の法律	○君と未来のライフプラン ○家庭基礎学習ノート （第一学習社）
	第２章　次世代をはぐくむ ①　次世代をはぐくむ ②　子どもとの生活	・親になるとは	○ＤＶＤ視聴

	第６章　衣生活をつくる ①　基礎縫いの練習 　　エプロンの製作 ②　衣生活の基礎知識	・衣服表示の意味と理解	○きそナビエプロン （クロッサム） ○基礎縫いキット
2	第３章　充実した生涯へ ①敬老の日とは ②超高齢社会を生きる ③高齢期の生活 第４章　ともに生きる 第５章　食生活をつくる ①　炭水化物・たんぱく質 ②　ミネラル ③　ビタミン ④　献立つくり ⑤　食品の選択と表示 ⑥　食品の衛生 ○調理実習１ 　卵焼き、しょうが焼き ○調理実習２ 　三色丼ぶり・お吸い物・わらび餅 ○調理実習３ 　沖縄料理	・体の変化 ・経済状況の不安　年金について学ぶ ・ユニバーサルデザイン、バリアフリーの現在の状況について ・カードを使って、献立を作成する ・食品の表示について理解し、適切に食品を選択できるようにする。品質表示やマークを読み取る力をつけ、目利きや旬、消費・賞味期限について学習する。 ・お弁当にいられるおかずの調理を学ぶ ・一人暮らしで簡単に作れる調理を学ぶ。<br　でんぷんによる簡単調理を学ぶ ・修学旅行に向けて、郷土料理を学ぶ	○家庭基礎学習ノート （第一学習社） ○高齢者体験を実施 ○プリント 〈アミノ酸価をもとめよう！〉 ○栄養価、バランスを考える ○一学期作成のエプロン・三角巾・マスク ○プリント 〈第一回調理実習〉 ○プリント 〈第二回調理実習〉 ○プリント 〈第三回調理実習〉
3	第７章　住生活をつくる ①　私達と住まい ②　一人暮らしの住まい 第８章　経済生活をつくる ①　私達の暮らしと経済 ②　消費者問題を考える ○調理実習４	・将来、一人暮らしをする際の知識を学ぶ ・個々の「消費者」が「商品・サービス」を購入するお金の流れを考える ・社会人となった際のお金の収支、社会保険について学ぶ ・18歳成人となり、消費者問題に巻き込まれないように知識理解を深める。 ・「和食」の実習を行い、配膳方法やマナーを身につける。 ・手軽に作れる料理の基礎を学ぶ。	○家庭基礎学習ノート （第一学習社） ○プリント（物件情報） ○ライフサイクルゲームⅢ 　～生涯設計のススメ～ ○プリント 〈給料明細をよみとろう！〉 ○プリント⑧ 〈第四回調理実習〉